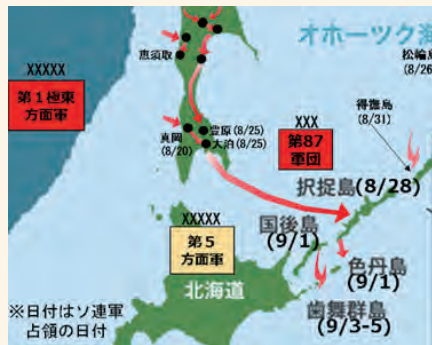


Part

02 北方四島・戦後の苦難

Sufferings and Hardships after The World War II

日本が1945年8月14日、ポツダム宣言を受諾してから、8月28日～9月5日に北方四島が占領されるまで何が起こったのか、また、終戦当時、およそ17,000人が暮らしていた北方四島の住民はどのような苦難を受けたのかなどを紹介します。



左:スライドアニメーション
1945年8月14日から9月5日(北方四島占領完了)まで外交上・軍事上の動きを逐日で紹介。

右:インタビュー動画
北方四島の元島民の方々の苦難の経験についてインタビュー動画で紹介。
(独立行政法人北方領土問題対策協会提供)

Part

03 北方四島 島と海の豊かな自然

Nature

北方四島の周辺海域には、動物群の優れた生態が残され、豊かな自然環境が保たれています。「根室市歴史と自然の資料館」等の全面的な協力を得て、北方四島と知床半島の豊かな自然の共通性を紹介します。同資料館の協力を得て、多くの動物や鳥類のはく製を展示します。

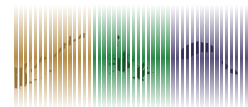


左:シマフクロウのはく製
北海道本島には約140頭しかいないとされ、極めて貴重。知床半島と国後半島との間を行き来していることが報告されている。
(根室市歴史と自然の資料館所蔵)

右:北方四島 一もりとうみのいきものたち
エトピリカのはく製、ラッコの毛皮、シャチの歯などを、解説パネルとともに1階図書コーナーにて展示。
(根室市歴史と自然の資料館所蔵)

領土・主権展示館企画展パンフレット「知られざる北方四島 ー歴史・文化・自然ー」

[展示期間] 2021年3月16日(火)～5月9日(日) [場所] 領土・主権展示館 2F 多目的コーナー [発行] 領土・主権展示館



領土・主権展示館

NATIONAL MUSEUM OF
TERRITORY AND SOVEREIGNTY

@ryodoshuken

Twitterを始めました。

[所在地] 東京都千代田区霞が関3-8-1 虎の門三井ビルディング1階
[電話番号] 03-6257-3715 [ホームページ] <https://www.cas.go.jp/jp/ryodo/tenjikan>



領土・主権展示館 企画展

知られざる

北方

ー歴史・文化・自然ー

四島

3/16(火)

5/9(日)

入場無料

Copyright JAXA/USGS/NASA 領土・主権展示館 左上:「蝦夷松前図」(北海道大学付属図書館所蔵) 右上:「ラッコの群れ」(外山雅大氏撮影) 中央:「エトピリカ」(根室市提供) 左下:「子供をつれたシャチの群れ」(世森号絵氏提供)

ごあいさつ

このたびは、企画展「知られざる北方四島 ー歴史・文化・自然ー」にお越しいただき、誠にありがとうございます。

択捉島、国後島、色丹島および歯舞群島からなる北方四島は、一度も他国の領土となることがない日本固有の領土です。

江戸時代、松前藩は17世紀初頭から北方四島を自らの領域として認識し、徐々に統治を確立していきました。択捉島と得撫島との間に国境が自然に成立しており、1820（文政3）年ごろ、日露両国間では、択捉島まで日本領であることの認識が一致していました。そして、1855年2月（安政元年12月）、日本とロシアは「日魯通好条約」に調印し、択捉島と得撫島の間の国境をそのまま確認しました。

本展では、「知られざる北方四島」をテーマに三部で構成し、領土問題はもとより、その歴史、文化、自然について紹介します。第一部では、あまり知られないエピソードを交えながら、先史時代から明治・大正期までの北方四島の歴史と文化を紹介し、北方四島が我が国固有の領土であることを示していきます。

1945（昭和20）年、北方四島がソ連に占領され、戦後75年たった現在も、ロシアによる法的根拠のない占拠が続いています。第二部では、日本がポツダム宣言を受諾してから、北方四島や同島の住民の方々には何が起こり、どのような苦難を受けたのか紹介します。第三部のテーマは、北方四島の自然環境についてです。北方四島の自然は、北海道の世界自然遺産として知られる知床半島と豊かな自然という共通性があります。

この展示を通じ、観覧者の皆様に「知られざる北方四島」の歴史、文化、自然を知っていただくことで、一層、北方領土問題について考えるきっかけとなり、また北方領土問題解決に寄与することができれば幸いです。



ニキシヨロ湖金毘羅山チャシ(アイヌ文化)
チャシは、アイヌの砦。13～19世紀まで築造。

Part

01 北方四島の歴史と文化

History and Culture

先史時代から大正時代にかけて、以下のような北方四島の知られざる歴史と文化のエピソードを紹介しつつ、北方四島が我が国固有の領土であることを示していきます。

先史時代より北海道本島と同じ文化圏が存在していた。

1810年代になると、日露両方が国境を画定しようとした
知られざる交渉の試みがあった。

1821年、ロシア皇帝は、クリル諸島（ウルップ島（得撫島）南岬まで）
における外国人による産業活動を禁止した。

1853年、ロシア皇帝は、日魯通好条約交渉にあたって、「ロシアに属する
最南端はウルップ島と述べて構わない」という訓令を出していた。

北方四島は幕末の一時期、仙台藩の領地であった。

明治初期の一時期、歯舞群島は東京府、色丹島は増上寺に属していた。

明治初期、択捉島および千島列島の近海では、イギリスやアメリカなどの
外国船によるラッコの密猟が多発し、明治政府はその取締りのための措置をとった。



長久保赤水『蝦夷松前図』（1791～1792年）
ウルップ島（得撫島）より北側にはロシア語の島番号が記されている。
（北海道大学附属図書館所蔵）



近藤重蔵『辺要分界図考』（1804年）本を再現展示
ウルップ島より北を、択捉島や国後島の北海道アイヌはチュプカ
と呼び、ロシア人はクリルと呼んでいるとあり、この当時から北方
四島は蝦夷（北海道）の一部であったことがわかる。
（国立公文書館所蔵）